

やすらぎ通信

第27号 (平成25年2月1日) 発行：大阪府立急性期・総合医療センター

きさらぎ (梅見月)

雪の降る街を

内村直也 作詞 中田喜直 作曲

- (一) 雪の降る街を 雪の降る街を
思い出だけが 通りすぎてゆく
雪の降る街を
遠い国から 落ちてくる
この思い出を この思い出を
いつの日かつつまん
温 (あたた) かき幸せのほほえみ
- (二) 雪の降る街を 雪の降る街を
足音だけが 追いかけてゆく
雪の降る街を
ひとり心に 充ちてくる
この哀 (かな) しみを この哀しみを
いつの日かほぐさん
緑なす春の日のそよ風
- (三) 雪の降る街を 雪の降る街を
息吹 (いぶき) とともに こみあげてくる
雪の降る街を
誰もわからぬ わが心
このむなしさを このむなしさを
いつの日か祈らん
新しき光降る鐘の音 (ね)

季節はまた一つ進み、2月。節分、立春と暦の上では春を迎えることとなり、なんとなく2月は心が浮き立ち始める時期ではと思いますが、皆さん方いかがお過ごしですか？

インフルエンザが流行する時期を迎えておりますが、外出から帰宅されたときは、必ず手洗いとうがいを欠かさないようにしましょう。体を冷やさず、水分を十分にとり、そして何よりも“笑い”を取り入れた生活。10月の「生と死を、今考える」シンポジウムでの「笑い与健康」をテーマにしたパネルディスカッションで、“笑い”には多くの健康増進効果があるとのこと指摘が相愛大学と森ノ宮医療大学の先生からありました。“笑い”には精神的緊張を取り除き血圧を下げる効果もあるということですから、是非、当センターでの「万代・夢寄席」にも来ていただいて思いっきり笑っていただけたらと思います。普段からの免疫力を高める生活を、是非実践しましょう。

ところで、万代池は、今冬の渡り鳥のピークを迎えています。気品のあるオオサギやアオサギの優雅なたたずまい、マガモの家族たちの水面をゆったりと漂う姿を見てみると、ここだけが都会の喧騒から抜け出た絵葉書の世界。何度見ても、自然の作り出した生命の美しさにここがやすらぎます。のんびりと万代池でやすらいだ気持ちでカモ達をながめる、天気の良い日には暖かい時間を見計らって是非お出かけ下さい。精神を緊張から解き放つ、免疫力を高めるにはこのことが不可欠です。

さて、関西で春を呼ぶ行事とは、奈良二月堂のお水取りもありますが、最も早い早春の風景としてあげられるのは大阪湾のイカナゴ漁の解禁ではないでしょうか。お水取りは3月初旬の行事である(お水取りは、昔は太陰暦の2月に行われていたので、お堂は「二月堂」と呼ばれるようになりました。)のに対して、イカナゴ漁は毎年2月20日過ぎから漁が解禁となり、大阪府側は、春木(岸和田市)、北仲通(泉佐野市)、岡田浦(泉南市)、尾崎(阪南市)、淡輪、深日(岬町)などの漁港などから、また兵庫県側は淡路東浦地区から一斉にバッチ網(機船船曳網)漁船が出漁します。

漁船団は通常四隻で構成され、うち網船と称される二隻の漁船が一双の「ばっち網」という網目の細かい、人の履く「ばっち」のような形をした網を両サイドから曳きイカナゴシラスを獲ります。残りの二隻は、色見船と運搬船で、色見船はイカナゴシラスの魚群を見つけ、いち早く網船に指示を出す船で、通常は漁労長が乗り込み、昔は文字通り「色」すなわち魚影の「濃い、薄い」を目で見て判断していました。この漁労長の判断の能力に応じてその船団の漁獲量が決まるという大変重要な役割を担っていました。今は、人間の目の代わりに電子の目、すなわち高性能の魚群探知機を使うと、瞬時に海の中が見渡せるので、これを使い効率的に魚群をキャッチし、網船に指示を出しています。ただし、このため漁獲強度が高まり、総資源量に悪影響が出るため、海域ごとに漁業者や行政、水産試験場関係者からなる調整会議を設け、産卵量

や成長速度などを、逐次産卵期の12月頃から観察し、そのデータをもとに漁期の開始・終了期などを決めるという資源管理を行いながら漁業が行われています。

また、運搬船は、文字通り獲れたイカナゴを市場のある漁港まで運搬する船で、鮮度が勝負の生のイカナゴシラスを1分、1秒でも販売・加工拠点に早く届ける役目を担っています。春先のイカナゴ漁の解禁時期になると、大阪湾のあちこちで、この4隻単位のばっち網漁業の操業が見られ、春の訪れを人々が実感することになります。自然を背景に営まれる人間活動が始まる時期、それが2月だということで、「心が浮き立ち始める」のです。

因みに、イカナゴの生態は、大阪府立環境農林水産総合研究所の資料では次のように紹介されています。

「イカナゴは、1年の半分近くを寝て過ごすという、変わった習性を持つ魚。もともと寒い北の海の魚で、お正月前後が産卵期。卵は明石海峡や紀淡海峡（大阪湾と紀伊水道を結ぶ海峡）近くの海底に産みつけられる。卵は10日ほどでふ化し、海中に出てきた子供は、海の流れによって湾内に広がり、餌（海中のプランクトン）を食べながら、ぐんぐん大きく成長。2月下旬から3月初旬には体長3cmほどになり、漁獲サイズになる。これは『新仔（しんこ）』と呼ばれ、生のものが『くぎ煮』用として店頭に出る。

その後、4月頃には再び海峡部付近に移動。水温が高くなる6～7月頃になると、体力の消耗を避けるため、海底の砂の中に潜って活動を停止する。これを『夏眠（かみん）』と呼ぶ。イカナゴはそれ以降餌を食べず、12月まで砂の中でじっとしている。この習性は、彼らが北の海から南の海へ分布を広げるために身につけた、暑い夏を乗り切る素晴らしい戦略。12月頃になると、水温が下がり、イカナゴは砂の中から出てきて、満1才となり産卵を行う。」とのこと。そして、このようなイカナゴの生態から、イカナゴが毎年漁獲できるためには、イカナゴが生息するためのきれいな海底の砂が不可欠とされています。海底の砂が開発のために採取され減ってしまったり、海洋汚染により汚れてしまうとイカナゴは棲めなくなり、ひいては春の庶民の食卓を潤すくぎ煮も作れなくなるというわけです。自然環境の保全が、私たち人間の生存には不可欠であることを表す好例であると言えます。

ところで、くぎ煮は、神戸の垂水漁港が発祥の地と言われ、もともと漁師料理だったものが周辺の人々に永年のうちに広がり、今では神戸を中心に播磨、明石、淡路北部の人々の春の食卓には欠かせないものとなっています。イカナゴのくぎ煮は、基本的に醤油、砂糖(ザラメ)、みりん、生姜を使って味付けしますが、各家庭ごとに、鰹と昆布のだし汁、酒、山椒、水飴、胡麻、レモン、八朔、鷹の爪など様々な調味料が加えられ、各家庭の味の特徴を出していると言われています。

そしてなによりも必要なのは、生の新鮮ないかなごシラス、そして大鍋が必要になります。神戸の垂水の方に行くと、これらが全て、地元の商店街で手に入るようですが、大阪でも産地の漁業協同組合などが、「くぎ煮教室」などを開き、新鮮な生のシラスを販売するとともに、失敗のない作り方を教えてくれるようですので、是非自分の手でくぎ煮を作りたいと思う方にはお勧めです。



喫茶室

さて、来月になると三度目の3月11日を迎えることとなります。以前にも申し上げましたように、被災地の復興は、遅々として進まず、また原子力発電所の被災と事故によって引き起こされた人々の生活への深刻な影響は未だ解消されず、未だ多くの被災者やご遺族は経済的にも精神的にも追い込まれた状況に置かれています。

私たち、日本国民全体が、今もなお継続する被害に目を向け、何ができるか、何をすることが問われ続けていることを忘れてはならないと思います。

それと同時に、これまでの戦後の私たちの社会を支えてきた価値観、特に自然との向き合い方を含む、社会全体のベースにある哲学をここで見直し、これからの持続的な経済活動を含む社会のあり方を立ち止まって考えるべきときに来ているのではないのでしょうか。

元来の日本人は、古来縄文の時代から、自然に対する理にかなった優れた自然観をもって生活をしてきた伝統があり、その自然観を今一度再確認し、私たちの生活の中に、リ・クリエイトするという意味での見直しが必要ではないかと思えます。

宗教学者の山折哲雄氏は、昨年春に放送されたNHKラジオ深夜便「明日への言葉」のなかで、震災直後に母の故郷であり、自分も中学、高等学校の時代を過ごした花巻に思いを馳せ、京都の住居を出て、「大阪⇒山形⇒仙台⇒東松島⇒石巻⇒南三陸町⇒気仙沼」と被災地を3日かけて回り、被災地の惨状を自分の脳裏に焼き付けて回ったと、その時の想いを語っておられます。

山折さんは今は京都にお住まいになっておられますが、東北とは縁があり、お母さんの実家が花巻で、戦争疎開により幼少の頃、母親の実家のある花巻に越されて、中学、高校は花巻の学校に通われました。このお母さんの実家と宮沢賢治の生家が近く、賢治と交流があったため、山折さんは賢治から多くの影響を受けて育ったようです。そして、その賢治が生まれる2月前に、明治三陸大津波が起こり（1896年、明治29年）、岩手を中心に死者・行方不明者21,959人が犠牲になり、また、賢治が亡くなった年の6か月前に、昭和三陸大津波が起こり（1933年、昭和8年）岩手を中心に死者・行方不明者3,064人が犠牲になっています。賢治の生きた時代の東北は、厳しい冷害、

干ばつ、飢饉に毎年のように襲われ、その上に二度にわたる大津波に遭遇するという過酷な状況の中にもありながらも、人々は、知恵と生きる工夫により、粘り強く生きぬきました。

山折さんは、自然の持つ二つの側面を、被災地を歩くことにより見えたとおっしゃっています。それは、おそろしく破壊力を持って人間に向かってくる自然と、他方何にも代えがたい優しい自然の姿だと。そして、被災者の方々が立ち直るには、優しい自然の姿、輝きを取り戻すことがなによりも必要であると思ったそうです。

と同時に、生きている人同士の絆だけでなく、亡くなられた多くの方の魂との絆を結ぶことが、立ち直りには必要だともおっしゃっています。

「海行かば 水漬く 屍 山行かば 草生す 屍」

(「うみゆかば みづく かばね やまゆかば くさむす かばね」)

山折さんご自身、多くの瓦礫の山や多くのご遺体の前に立たれた時、また立ちすくんで呆然と涙を流しておられるご遺族の姿を前にしたとき、日本の最初のアンソロジーである万葉集に集められたこの大伴家持の歌が、自然と浮かんできたと言われていいます。

さきの戦争中に大本營がラジオで玉砕放送を流すときには、必ずこの歌曲が最後に流されました。そして、戦後は歌うことを禁じられた歌曲でもあります。

作曲家信時 潔 (のぶとき きよし) が作ったこの曲は、本来は日本近代を代表する優れた歌曲と評され、第2国歌とまで言われ、死者を悼み、魂を鎮め、無数のしかばねの鎮魂を願って作られた歌曲でした。決して、戦意高揚に使うために作った曲ではありませんでしたが、結果としては戦争遂行のために使われました。このことについて、作曲した信時 潔は、大変悲しんだと言われていいます。

山折さんは、この大伴家持の心に今の心境を投影しながら「万葉人にとって死者の魂の行方が重要であった。しかし、現代の日本人が魂の想像力を未だ持ち続けているのかが問われているような気がする。」と。また、「この震災を期に、『人と人との絆』がクローズアップされ、我々の社会には未だそうした想いが残っていたと再確認できた。しかし、人と人との絆のみに想いをはせるのではなく、生きている人と亡くなった人との絆を改めて考えていかなければならない。」このことが、被災者の方々の心の立ち直りには必要だと言われているのです。

山折さんから見た被災者の方々の表情は終始穏やかで、アメリカのハリケーン被害に遭った人々の表情とはずいぶん違っており、これには、日本人固有の世界観、人生観、信仰がかかわっていると。東北の方々の穏やかな表情の裏には、地震や自然災害によって引き起こされる何千年、何万年にわたる不安定な自然とつきあいのなかで構築された日本人の「天然の無常感」、すなわち、「永遠はない」「形あるものは壊れる」

「必ず生あるものは死ぬ」という無常観が、五臓六腑に染み込んでいることがあるとされています。

ところで、こうした山折さんの日本人の自然観に関する考え方は、山折さん自身番組の中で言及されているように、山折さんのオリジナルではなくあの著名な科学者である寺田寅彦博士が整理をされた日本人の自然観についての考え方の影響を受けたものです。

寺田寅彦（1878年—1935年）は、戦前の偉大な地球物理学者であり、地震学の権威であり、また随筆家であり、俳人であるという多彩な能力をもった科学者でありましたが、彼が残した専門の諸論文や随筆などを通して彼が語った自然哲学、社会哲学、防災哲学、自然観などは、今日の科学者のみならず、山折さんのような宗教学者、哲学者、思想家、歴史学者などに未だ、大きな影響を与え続けています。「天災は忘れた頃にやってくる」は、悲惨な自然災害が発生するたびに繰り返される彼の言葉です。この寺田寅彦が、最晩年に「日本人の自然観」という論文を執筆していますが、今この論文は、今日、私たちが科学技術と自然の両者にどのように向き合っていけばいいのかを考えるうえで、今もなお多くの示唆を与えていると思いますので、少し長くなりますが、引用したいと思います。（文章は原文のままで、読みづらいことをお許し下さい。）

「日本の自然界は気候学的・地形学的・生物学的その他あらゆる方面から見ても時間的ならびに空間的にきわめて多様多彩なあらゆる分化のあらゆる段階を具備し、およそ考えらるべき多種多様な結合をもってわが国土を色どっており、しかも、その色彩は時々刻々に変化し、自然の舞台を絶え間なく変化させている。このような自然の多様性と活動性とは、そうした環境の中で保育されてきた国民にいかなる影響を及ぼすか。自然の神秘と威力を知ることが深ければ深いほど人間は自然に対し、従順になり、自然に逆らう代わりに自然を師として学び、自然自身の太古以来の経験をわが物として自然の環境に適応するように務めるであろう。

大自然は慈母であるとともに厳父であり。厳父の厳訓に服することは慈母の慈愛に甘えるのと同様にわれわれの生活の安寧を保障するために必要なことである。

人間の力で自然を克服せんとする努力が西洋における科学の発達を促した。何故に東洋の文化国日本にそれと同じような科学が、同じ歩調で進歩しなかったのか。その差別の原因の少なくともその一つには、上記のごとくの日本の自然の特異性が関与しているのではないかと想像される。

すなわち、日本では、まず第一に自然の慈母の慈愛が深くその慈愛に対する欲求が満たされやすいために住民は安んじてその懐に抱かれることができる。という一方ではまた、厳父の厳罰のきびしさおそろしさが身にしみて、その禁制に逆らうことの

不利をよく心得ている。その結果として、自然の十分な恩恵を甘受すると同時に、自然に対する反逆を断念し、自然に順応するための経験知識を集収し蓄積することを務めてきた」と、日本人の古来からの自然観を述べています。その上で、寺田は近年、自然の摂理を無視して、輸入した西洋科学に基づき、『地の相する』ことを知っていた昔の日本人では絶対に建設しないところに、人工物を『伝来の相地の学を蔑視し』て建設したことが、建物が壊滅する被害をもたらした（昭和9年・10年風水害）ことを指摘する。

そして、寺田は、「こうして発達した西欧科学の成果を、何の骨折りもなくそっくり継承した日本人が、もしも日本の自然の特異性を深く認識し自覚した上でこの利器を適当に利用することを学び、そうしてただでさえ豊富な天恵をいっそう有利に享有すると同時に、わが国に特異な天変地異の災禍を軽減し回避するように努力すれば、おそらく世界じゅうでわが国ほど都合よくできている国はまれであろうと思われるのである。」と述べ、最後に「しかるに現代の日本ではただ天恵の享樂にのみ夢中になって天災の回避のほうを全然忘れるように見えるのはまことに慎むべきことと思われる。」と当時の、日本人の自然観、古来積み重ねてきた自然との向かい方の知恵を忘れて、西欧の輸入物である科学技術万能主義に陥りがちな当時の世相に対し、厳しく警告を発しています。

この寺田寅彦の警告は、現代にもそのままあてはまるものであり、この警告に現代の科学者たちが謙虚に耳を傾けていれば、今回の福島原子力発電所の事故は起こらなかったのではないかと指摘する識者も少なからずいます。

寺田は、このような日本人の自然観について述べたうえで、日本人の精神生活について以下のように特徴づけています。

「単調で荒涼な砂漠の国には一神教が生まれるといった人があった。日本のように多彩にして変幻きわまりなき自然をもつ国で、八百万（やおよろず）の神々が生まれ崇拜され続けてきたのは当然のことであろう。山も川も木も一つ一つが神であり人でもあるのである。それをあがめそれに従うことによってのみ生活生命が保証されるからである。また、一方地形の影響で住民の定住性、土着性が決定された結果は至るところの集落に鎮守の社（もり）を建てさせた。これも日本の特色である。

仏教が遠い土地から移植されてそれが土着し、発育し持続したのはやはりその教義の含有するいろいろの因子が日本の風土に適応したためでなければなるまい。思うに仏教の根底にある無常観が日本人のおのずからな自然観と相調和するところのあるのもその一つの因子ではないかと思うのである。鴨長明（かものちょうめい）の方丈記を引用するまでもなく地震や風水の災禍の頻繁でしかも全く予測し難い国土に住むものにとっては、天然の無常は遠い遠い祖先からの遺伝的記憶となって五臓六腑に

しみわたっているからである。」

寺田は、このように日本人の精神性をものの見事な表現で言葉にしております。

岩手県、宮城県を中心に東北の太平洋岸は、明治以降、今回で3度目の大きな津波により多くの尊い命が奪われることになりましたが、今回の3.11大災害は、これまでの明治、昭和の大津波と根本的に異なる災害であったといえましょう。それは、人間が科学技術の力により、自然の脅威を克服したと慢心しているなかで起こった大災害であったということです。しかし、科学的な「知見」や「予測」は、巨大な防潮堤が大津波の前に何の役にも立たなかったことに象徴されますように無力でした。逆に、津波の脅威をきちんと受け止め、事前に周到な避難訓練をしていた釜石市小学校と中学校では、その日に学校の管理下にあった小学生1,927人、中学生999人全員が適切な対応行動をとることにより誰一人として犠牲者を出さなかったという事実がその対極に位置します。

原子力発電所の事故に関しては、これまでも良識ある原子力科学者は、電力会社や国が説明してきた「安全」神話の欠陥を具体的に指摘し、原子力事故を想定した住民の避難対策、訓練の必要性や、原子力事故は必ず起こるということを前提にした対策を予め立てるべきであるという提言を繰り返し行ってきたにもかかわらず、電力会社や経済産業省は「原子力は安全」一本で突っ走り、そういった良識ある科学者の声は退けられてきました。

今から80年も前に寺田寅彦は「天恵の享樂のみに夢中になって天災の回避のほうを忘れるように見えるはまことに慎むべきこと」と今日の事態を予測したかのごとく警告を発しておりましたが、彼の警告は原子力発電所の「安全神話」の前には一顧だにされませんでした。

彼は、日本人の自然観というのは『地の相することを知り』、『伝来の相地の学を決して蔑視しない』というのが、古来自然に向かい合うに当たっての染みついた『知恵』、『伝統的な考え方』であり、このことによって、自然の『慈母の慈愛』を享受し、『厳父の厳罰』を回避してきたという事実を、近代科学の導入に当たっては十分考慮に入れるべきと指摘しました。このことからすると、原子力発電所の立地が『地の相することを知って』選定されたのか、はなはだ疑問です。

今回の3.11大災害を踏まえて、私たちがそこから教訓を引き出すならば、寺田が残した遺訓である日本の自然の特異性から自ずと永年身につけた自然観、即ち自然を征服し、コントロールできる対象として見るのではなく、自然に身を置き、自然に受容的に向かい合うことにより、共存していくという日本人が長い年月をかけて形成してきた自然観を今一度思いおこし、社会の基層をながれる哲学を再構築すべき機会とすべきではないかと思いますが、皆さま方いかがでしょうか。



お便り

去る 13 日の日曜日は、多くの高校生たちの希望に満ちた若々しいエネルギーと真剣なまなざしで当センターは熱気につつまれました。

高校 1、2 年生に、医師や看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師、診療放射線技師、PT・OT・ST などになったつもりで、内視鏡手術の模擬体験や、患者さんの介助や新生児の沐浴の仕方、薬の分包の仕方など、様々な職種の医療行為を実践しながらに模擬的に体験していただく「第 2 回ふれあい病院探検隊」を開催したところ、昨年の 1.5 倍の 506 人も多くの高校生の皆さんに参加していただきました。

今回は、できるだけ多くの高校生の皆さんに参加をいただけるよう、イベントスペースを拡大するとともに、イベントの数や参加枠の拡大し、さらには、事前登録なしに当日自由に参加できるフリーのイベントも増やしました。

また、講堂は、全スペースを三つの連携大学のコーナーとして使っていただいた結果、各大学のブースも一層充実していただき、当日多くの高校生が講堂に来場するという大変人気のコーナーともなりました。

今回の「探検隊」を通じて、多くの若い高校生たちが、真剣に将来の自分の仕事として、医療の様々な分野の担い手をめざしてくれていることを、改めて心強く実感することができました。また、彼らにとっても将来の職業選択のとてもいい実践的な体験をこの「探検隊」を通じ提供できたのではないかと自負しております。

来年も、この成功を踏まえ、より充実した「ふれあい病院探検隊」のイベントを高校生の皆さんに提供できるよう努力していきたいと思っております。

なお、連携大学である、相愛大学、森ノ宮医療大学、大阪府立大学からは約 100 人の将来の看護師、管理栄養士、理学療法士、保育士などを目指す学生さんがボランティアとして、昨年に引き続きご協力をしてくださいました。

改めまして、三大学の関係者の皆様には心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

NEWS

【(新) 新たな専門外来—喘息専門外来を開設しました！ 免疫リウマチ科】

このたび、気管支喘息（喘息）治療の標準化、喘息発作患者さんの受け入れ体制の改善、そして喘息死ゼロを目指して、喘息専門外来（成人）を開設しました。

気管支喘息（喘息—ぜんそく）の治療は、近年めざましく進歩しました。

喘息の診断にお困りの方、あるいはなかなかよくなるない喘息患者さんは是非、当科の喘息専門外来（成人）を受診して下さい。

喘息に関しては、息苦しくなる発作がその時に治まるだけでいいというものではありません。発作を繰り返すことで、将来気管支が細くなったまま広がりにくくなり、また、気管支がより過敏な状態となることで重症になる可能性が高くなります。従って発作を予防する（炎症を治める）治療をすることが最も大切です。

吸入ステロイドを中心とした炎症を治める治療に重点を置き、抗 IgE 抗体療法なども積極的に導入させていただきます。また、必要な患者さんには喘息日誌やピークフローによる自己管理をお勧めし、その指導をさせていただきます。

ご相談は、免疫リウマチ科 主任部長 藤原 弘士 まで

【(継) 小児消化器病・肝臓病のお子様の健やかな成長を支援します—小児科】

当センター小児科では、消化器病・肝臓病の治療に積極的に取り組んでいます。特に炎症性腸炎疾患（IBD）・ウイルス肝炎については「小児消化器チーム」として専門診療を行っています。炎症性腸疾患は原因不明の慢性疾患であり、最近我が国の子どもでも増加しています。当小児科ではステロイド静注療法やステロイドパルス療法に加えて、白血球除去療法、免疫抑制療法（イムラン、タクロリムス）を取り入れた治療を行っています。治療の進歩によって入院回数と日数は大幅に減少し、初回の寛解導入の期間を除けば、おもに外来治療で寛解を維持できております。このことにより患者さんの日常生活や学校生活も大きく改善しております。とくに今年から難治性あるいは重症の潰瘍性大腸炎・クローン病のお子様を対象に、インフリキシマブ（商品名：レミケード）の治験を開始しました。従来の治療では良くなるない炎症性腸疾患（IBD）のお子様でも劇的に良くなる方を経験しております。レミケードの治験の実際については、小児科主任部長などに遠慮なくお問い合わせください。

肝臓病ではウイルス肝炎（B型、C型）、自己免疫性肝炎、脂肪肝、脂肪肝炎、硬化性胆管炎、糖原病、ウイルソン病、原因不明の肝疾患などの診療を行っています。

とくにB型肝炎およびC型肝炎のインターフェロン治療（注射薬）、核酸アナログ治療（経口薬）に積極的に取り組んでいます。治療の進歩によってB型肝炎、C型肝炎ともほとんどのお子様において肝炎が良くなっております。

治療に難渋されている潰瘍性大腸炎・クローン病などの消化器病およびウイルス肝炎などの肝臓病に関してはどうぞお気軽にご相談下さい。

小児科 主任部長 田尻仁

【(継) 臨床研究の新たな発展をめざし—臨床研究部を設置しました】

当センターでは、新たな医薬品、医療機器、治療方法などの開発を行うための臨床研究をこれまで以上に推進するため、このたび、新たに院長直属の「臨床研究部」を設置し、11の研究部門、1の臨床研究室(実験)でスタートしました。臨床研究部は、来年4月には「臨床研究センター」に発展させる予定です。各研究部門の概要は以下の通りです。

第1研究部門(がん)、第2研究部門(腎・心・血管・肺)、第3研究部門(代謝・消化器)、第4研究部門(精神・脳・神経・麻酔)、第5研究部門(免疫・アレルギー・移植・感染)、第6研究部門(救急・小児・周産期)、第7研究部門(運動器)、第8研究部門(生体画像・検査医学)、第9研究部門(薬学)、第10研究部門(看護学)、第11研究部門(医療疫学、医療情報)、臨床研究室(実験)

【(継) PET-CTによるがん検診を行っています—画像診断科】

—低被ばく・短時間撮像で高画質。快適な検査環境と

高い診断精度で皆様方にご満足いただけることと確信しております。—

PET-CT検査につきましては、これまでは、がんが見つかった患者さん、がんの疑いのある患者さんを対象として、精査のための検査を行って参りましたが、**昨年、11月1日から、地域の医療機関からのご紹介を条件に、がんの疑いのある患者さんだけでなく、広くがん検診を目的とした検査も実施しています。**

当センターのPET-CT装置は、国内で5台目のTOF(Time-of-Flight)技術を用いた世界最高水準のもので、ノイズの少ないクリアで高品質な画像を得ることができます。

一度に全身(頭部から大腿部)のFDG-PETがん検診とCT検診を受診できます。診断は全て放射線診断専門医・PET診断認定医が行います。

検査室のインテリアや照明は、落ち着いたくつろいだ雰囲気です。安心して検査を受けていただけるよう工夫をこらしております。

検診のご利用料金は、98,000円(税込)です。是非、皆さんの健康管理にご活用下さい。

また、引き続きがんが見つかった患者さん、がんが疑われる患者さんの地域の医療機関からの撮影依頼も受け付けておりますので、こちらの方も積極的にご活用下さい。

お問い合わせは画像診断科RI(核医学)・PET検査室まで。

【(継) 進む！放射線治療装置を活用したがんの低侵襲治療—放射線治療科—】

当センターの放射線治療装置を一新して2年目に入っております。この期間に脳・肺・肝に対する定位照射、前立腺IMRT(強度変調放射線治療)を順次開始し、昨年4月からは頭頸部腫瘍に対するIMRTも開始しました。画像誘導技術を用いた低侵襲治

療が可能で、脳定位照射などいずれも外来通院で治療は完結できます。

現在では高精度治療は初診から数週間程度で、待機可能な前立腺癌に対する IMRT でも3ヶ月待ち程度で受けて頂くことが可能となっています。

また、小線源治療（高線量率遠隔治療および前立腺癌に対する低線量率ヨード線源永久挿入療法）も行っています。

放射線治療装置を用いたがん低侵襲治療に関しては、お気軽にご相談ください。

放射線治療科 部長 島本 茂利まで

【(継)前立腺がんの手術—内視鏡手術支援ロボット“ダ・ヴィンチ”による

手術を他施設に先駆けて本格実施中！】

泌尿器科領域における手術の多くは腹腔鏡手術となってきています。副腎から始まり腎摘除術、腎がんの根治手術に適応され、現在は前立腺がんの手術にも多くの施設で腹腔鏡手術が主流となってきています。

当科では2009年から腹腔鏡下前立腺全摘術を開始し、2010年に施設認定を取得し2011年は69例の前立腺がん手術のうち36例に腹腔鏡手術を施行しました。腹腔鏡下手術は内視鏡で観察しながら行う手術の事で、お腹に大きな創を作ることなく、小さな穴を5~6箇所開けて直径5~12mmのトロカーと呼ばれる筒状の器具を通して行う、体に負担が少なくてすむ手術です。内視鏡で観察しながら行いますので、肉眼よりは拡大視野で行うためにより、細かい手術が可能となっています。尿失禁に係る尿道括約筋や勃起神経の温存が可能です。開腹手術に比較して出血量も極めて少なくなっています。傷の治りが早く術後の痛みが少ないため術後回復が早いことが特徴で、入院期間は10日から2週間ぐらいの期間です。

今年の診療報酬改定に伴い医療用ロボットを使った手術が保険で行うことが可能となったため、当センターでは府内の他施設に先駆けて、手術支援ロボット「da Vinci S」(ダ・ヴィンチ)を導入・活用し、前立腺がんの内視鏡手術を行っています。

このダ・ヴィンチによる手術の特徴は術者が拡大された3次元の画像を見ながら手術操作を行うところにあります。手術操作鉗子の先は手首や指の関節のようになめらかに動き、手以上の可動域を持っており、より細かな手術操作が可能となり、狭い骨盤の底で尿道と膀胱をつなぎ合わせる前立腺がんの手術には最適の医療技術です。前立腺はクルミ大の大きさで周囲は膀胱、直腸があり、周囲には血管や勃起に係る神経や尿道括約筋が存在します。拡大された3次元の画像を見ながら、術者の手の動きは縮小され、手ぶれも補正されて行われるため正確な手術が施行可能です。特に尿道と膀胱の吻合はダ・ヴィンチならではの有用性が生かされます。したがって、がんの根治性の向上はもとより、勃起機能不全や尿失禁などの合併症の軽減も期待できます。

【(継) 「医療相談」コールセンターのご利用を一地域医療連携室】

患者さんやご家族などからの医療や病院利用に関するご相談を、専門の看護師が電話でのご相談に応じさせていただく「医療相談」コールセンターを開設運用しております。是非お気軽にご利用ください。

電話番号は 06-6692-2800 (専用電話回線)

06-6692-2801 (専用電話回線)

相談日時 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時

相談対象 医療相談を希望されるご本人若しくはご家族等

相談員 看護師

【(継) 診察予約変更センター 11診療科において

診察の予約日・時間の変更を電話で受け付けています！

当センターでは、下記の11診療科を対象に、電話で診察時間の予約の変更ができるよう「診察予約変更センター」を設置しています。是非、積極的にご活用ください。なお、このサービスは初診に関しては行っておりませんので、ご注意くださいようお願いいたします。

(電話番号) 06-6692-1201(代表)にダイヤルして

「予約変更センター」と言ってください。

(受付時間) 午後3時～午後5時(平日のみ)

(対象診療科) 内科・呼吸器内科 消化器内科 糖尿病代謝内科 整形外科

免疫リウマチ科 皮膚科 形成外科 腎臓・高血圧内科

神経内科 脳神経外科 耳鼻咽喉・頭頸部外科

【(継) 入院治療費の概算に加え、新たに外来での検査費用の

概算を予めお知らせするサービスを始めました。】

当センターにおきましては、入院患者さんへのサポートを総合的・集約的に行う入院センター(やすらぎセンター)におきまして、ご入院申し込み時に予め標準的な治療を行った場合の概算費用をお知らせするサービスを行っています。

また、昨年、11月1日から、新たに、CT、MRI、RI、エコー検査など検査費用の概算を医療・福祉相談コーナーなどでお知らせするサービスを開始しました。

今月の催し

【(新) 第12回万代・夢寄席—三代目桂春団治—門会—】

日 時 平成25年2月12日(火) 午後2時～
場 所 本館3階講堂
出 演 桂 梅團治
桂 紋四郎
主 催 万代やすらぎ亭
協 力 三代目桂春団治師匠を囲む会
(入場無料)

【(新) 大好評!!】

相愛大学連携・外来糖尿病教室 ～知って得する! 糖尿病の付き合いかた～】

日 時 2月20日(水) 午後2時～3時30分
場 所 本館1階アトリウム
内 容 「糖尿病ってどんな病気?～もう一度振り返ろう～」
糖尿病代謝内科 医師 清水 彩洋子
「インスリンの話あれこれ②」
薬局薬剤師 天野 二愉香
「外食でも気をつけて」
栄養管理室 管理栄養士 笠井 香織
「血圧測定」 (ご希望の方)
(参加無料)

【(新) 今月のすこやかセミナー】

①膵臓と血管を守る糖尿病治療薬

～インクレチン関連薬とインスリン療法を中心に～

日 時 2月14日(木) 午後2時～3時
場 所 本館3階保健教室
講 師 糖尿病代謝内科 部長 馬屋原 豊
(参加無料)

②転倒の予防について

日 時 2月22日(金) 午前11時～12時
場 所 本館3階保健教室

講 師 リハビリテーション科 診療主任 野口 和子
(参加無料)

【(継) 第8回病院ギャラリー企画展】

—昭和の巨人・グラフィックデザイナー 田中一光の世界—

戦後から昭和が幕を閉じるまでの期間、日本のグラフィックデザイナーの絶えずトップランナーを突っ走った田中一光。その鋭い感性で、未来を鋭くキャッチし、広告やポスターデザインに取り入れ時代を先導した姿に、多くのフォロワー達が胸を熱くし、今もなお彼の姿を追いかけている。

今回は、大阪を中心に活躍した、我が国のグラフィックデザイナーの巨匠が残したポスター作品の数々の中から、我が国の経済が絶頂期にあった大阪万博以降の作品を取り上げて時代をともにたどります。

本企画展は、大阪府江之子島文化芸術創造センターのご協力を得て実施します。

日 時 平成24年12月25日(火)～平成25年4月19日(金)

(午前9時～午後5時30分)

場 所 本館2階 現代美術空間 病院ギャラリー

展示作品リスト

- ① 1973年 日本の選択 (毎日、日本研究賞論文募集、新聞広告)
- ② " 上方芸の会
- ③ " サンケイ観世能
- ④ " 演劇「探偵」(劇団四季 西武劇場)
- ⑤ " 結城 人形座公演
- ⑥ 1974年 演劇「桜の園」(チェーホフ作、劇団民藝、西武劇場、東京)
- ⑦ 1976年 Music Today “76
- ⑧ 1977年 Hanae Mori
- ⑨ " 曼荼羅展 1977
- ⑩ " JAPAN STYLE
- ⑪ 1979年 ゆめつづれ
- ⑫ 1981年 マルシェル・テュシャン展
- ⑬ 1982年 緑と人
- ⑭ " 草月：創造の空間展
- ⑮ " 多彩な食卓：House Food
- ⑯ 1983年 サンケイ観世能
- ⑰ 1984年 ヨーセフ・ボイス展

- ⑱ 1985 年 Music Today “85
- ⑲ “ 中村宗哲歴代展
- 20 “ イサム・ノグチ展
- 21 1986 年 Japan
- 22 “ オープン 銀座セゾン劇場
- 23 “ カルメンの悲劇
- 24 “ チャオ・イタリア
- 25 1988 年 Street
- 26 1989 年 セゾン美術館
- 27 1990 年 グラフィックデザインの今日
- 28 “ 三宅一生展 TEN SEN MEN
- 29 1991 年 CANADA ” 91
- 30 1993 年 文字の演技力
- 31 1996 年 人間と文字—エルトリア
- 32 “ In Search of Elegance
- 33 “ モリサワ フォント (A)
- 34 “ New Japanese Graphics 以上 34 作品

【(予告) 第 13 回万代・夢寄席—” 平成の成長株！ “桂かい枝落語会—】

日 時 平成 25 年 3 月 14 日 (木) 午後 2 時～
 場 所 本館 3 階講堂
 出 演 平成の成長株！ 桂 かい枝
 主 催 万代やすらぎ亭
 (入場無料)

【(予告) 恒例！合唱団 TG「まつぼっくり」Spring コンサート】

日 時 平成 25 年 3 月 18 日 (月) 午後 1 時 30 分～1 時 50 分
 午後 2 時 15 分～3 時 15 分
 場 所 本館 1 階アトリウム (1 時 30 分～)
 本館 3 階講堂 (2 時 15 分～)
 出 演 帝塚山学院関係者の皆さんで作る TG 合唱団「まつぼっくり」
 内 容 合唱 (男・女・混声)、弦楽アンサンブル・マンドリン・ピアノソロ・
 ケルティックハーブなどの演奏
 (入場無料)

【(予告) 第 24 回相愛大学連携コンサート—弦楽四重奏—】

～グレースフルな弦の音に、優しい春の光を見つけよう～

日 時 平成 25 年 3 月 21 日 (木) 午後 2 時～

場 所 本館 3 階講堂

出 演 弦楽四重奏

演奏曲目 調整中

(入場無料)

【(予告) 第 14 回万代・夢寄席 —旭堂小二三 講談の会—】

～若手女流のホープ、旭堂小二三の人情講談！～

日 時 平成 25 年 4 月 23 日 (火) 午後 2 時～

場 所 本館 3 階講堂

出 演 旭堂 小二三

(入場無料)

Topics

【(新) やすらぎのプロムナードで春の訪れをキャッチ—北側通路周辺—】

いよいよ季節は立春を迎えました。気持ちの上では春の訪れを感じる頃となりました。プロムナードの名物の満天星ツツジの蕾は、未だ春遠しとしっかり硬い蕾の殻で、身を守っておりますが、その蕾をじっと眺めていますと、どことなく、蕾の口元からかすかな笑みがこぼれているように見えます。さあ、いよいよ、植物たちとともに、陽光がやさしく私たちを包んでくれる日の近きことを、喜びあいましょう。

今月のひまわりさん

各種窓口でセンターご利用のお手伝いをさせていただいている医事事務委託会社ソラストの窓口担当を紹介させていただくコーナーです。

【(新) 公費請求担当 片岡さんの巻】

初診窓口は、患者さんが病院に来られて最初に対応をさせていただく窓口となることから、病院の「顔」とも言うべき存在だと思っております。

不安をいっぱい抱えて来られる患者さんがはじめて訪れてこられるのが、私たちの窓口です。このため、少しでも患者さんの不安を取り除き、安心していただけるよう、いつも笑顔を決やさず、ハキハキとした対応に心がけております。

しかし、時として、とてもしんどそうにされている患者さんを前にした時には、ニコニコ笑顔で対応させていただくのがよいのかと疑問を感じることもあります。

ある日のことでした。定期的に通院されておられる患者さんから「いつも来た時に
見ているけれど、笑顔で応対するって、大変やね。でも、頑張ってるね。」と書いて
いただいたことがありました。私自身、患者さんに、このようなお言葉をかけていた
くとは思ってもよらないことでした。

普段、これでよいのかと自問自答していた私にとって、その患者さんのお言葉で、
自信を持って「笑顔で応対」することができるようになりました。これからも、私
たちの窓口が病院の「顔」であるということを意識し、患者さんに少しでも、希望や
やすらぎを感じていただけるよう心がけていきたいと思っております。

その他のお知らせ

【(継) やすらぎ通信はメルマガで！】

「やすらぎ通信」は、メルマガでも配信しております。ご希望の方は、当センター
ホームページからアドレスを登録していただきますようお願いいたします。なお、ホーム
ページのご検索は、「大阪府立急性期・総合医療センター」にて可能です。

【(継) 医療費の支払いはキャッシュカードでできます！】

当センターの医療費自動精算機は、デビットカード対応となっておりますので、ほ
とんどの金融機関のキャッシュカードでお支払いができます。

これらの金融機関はJ-Debit に加盟していますので、キャッシュカードに自動的に
デビット機能が付与されているからです。(ただし、キャッシュカードでお支払い
いただいた場合は即座に口座から引き落とされることとなるため、口座に引き落とし金
額以上の残高が必要ですのでご注意ください。)

このため、医療費の支払いのための現金を持たなくても、キャッシュカードさえあ
ればお支払いが可能です。

また、引き落としの手数料は不要ですので大変便利です。是非ご利用ください。

なお、合わせて一般のクレジットカードでのお支払いもできます

当センターは、当センターが「希望の医療空間」「よろこびの医療空間」
「やすらぎの医療空間」となるよう日々努力しています。